

Genie®

操作説明書
メンテナンス情報付属

Second Edition
Second Printing
Part No. 82262JA

GS™-2668 DC
GS™-3268 DC

重要

本機械を操作する前に、操作説明書の中の安全規則と操作指示をよく読み、理解し、従ってください。トレーニングを受け認定された担当者のみ機械を操作することが許されています。本説明書は機械の一部とみなされ、常に機械と一緒に置かれていなければなりません。質問がございましたら Genie Industries までご連絡ください。

目次

ページ

安全 1
説明 8
操作 9
操作前の点検 11
メンテナンス 13
機能テスト 15
作業場の点検 20
操作手順 21
輸送手順 25
ステッカー 26
仕様 28

連絡先：

インターネット：http://www.genielift.com
電子メール：techpub@genieind.com

Copyright © 1999 Genie Industries

初版： 第 6 刷 2002 年 1 月

第 2 版： 第 2 刷 2002 年 3 月

「Genie」は米国およびその他の国における Genie Industriesの登録商標です。「GS」は Genie Industries の商標です。

♻ 再生紙使用 L

Printed in U.S.A.

安全規則



危険

本説明書の操作指示と安全規則に従わない場合は、重傷または死に至ることがあります。

操作を行う必須条件：

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

1 危険な状態での使用を避ける。

次のセクションに進む前に、安全規則を理解し、心得てください。

2 常に操作前の点検を行う。

3 使用する前に常に機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

☑ 下記をよく読み、理解し、服従する：

製品使用説明書と安全規則 — 安全規則と操作マニュアルおよびステッカー

従業員の安全規則と作業場所の規制

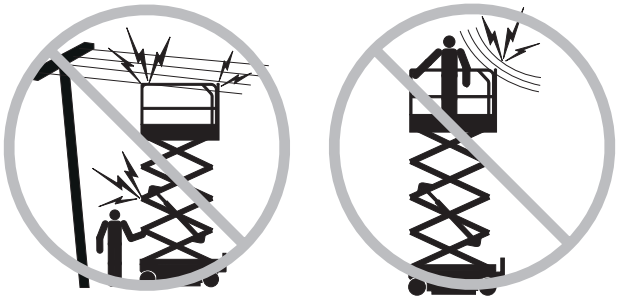
適合する法規

☑ 安全な機械操作のための適切なトレーニングを受けている。

安全規則

感電の危険

この機械は絶縁されておらず、電流に接触した場合、あるいは近接する従業員の保護にはなりません。



適合する法規および次の表に従って、電線や機械から安全な距離を保持してください。

電圧範囲	安全上の最短距離 メートル
0～300V	接触を避ける
300V～50KV	3.05
50KV～200KV	4.60
200KV～350KV	6.10
350KV～500KV	7.62
500KV～750KV	10.67
750KV～1000KV	13.72

作業台の動きや電線の揺れやたるみを考慮にいれ、強風および突風に注意してください。

機械が通電している電線に接触している場合、機械に近づかないでください。地上もしくは作業台の従業員は、電線の電気が止められるまで絶対に機械に触れたり操作しないでください。

雷や暴風のときは機械を操作しないでください。

溶接するときに機械にアースを接地しないでください。

転倒の危険

作業員と装備の重量は、作業台あるいは作業台延長の最大積載荷重量を超えてはなりません。

最大積載重量 - GS-2668 DC	
作業台収納時	567 kg
作業台伸長時 - 作業台のみ 作業台伸長時 - 延長部のみ	431 kg 136 kg
最大作業員数 - ANSI および CSA	4
最大作業員数 - CE 屋外使用 屋内使用のみ	 4 4



567 kg　延長部のみ 136 kg　作業台のみ 431kg

最大積載重量 - GS-3268 DC	
作業台収納時	454 kg
作業台伸長時 - 作業台のみ 作業台伸長時 - 延長部のみ	318 kg 136 kg
最大作業員数 - ANSI および CSA	4
最大作業員数 - CE 屋外使用 屋内使用のみ	 2 4



454 kg　延長部のみ 136 kg　作業台のみ 318 kg

リミットスイッチを変更したり、使用不能にしないでください。

作業台を上げたままの状態で 時速 0.8 km 以上の速度で走行しないでください。

傾斜レベルの指標として傾斜アラームに依存しないでください。傾斜アラームは、機械が急な斜面にある場合にのみ作業台内で鳴ります。

傾斜アラームが鳴っている場合は、作業台を下げます。機械を安定した平坦な地面に移動してください。作業台が上がっている状態で傾斜アラームが鳴った場合、細心の注意をはらってブームを収縮し、作業台を下げてください。

機械がしっかりとした平坦な地面に設置されている場合以外は、積荷を上昇しないでください。

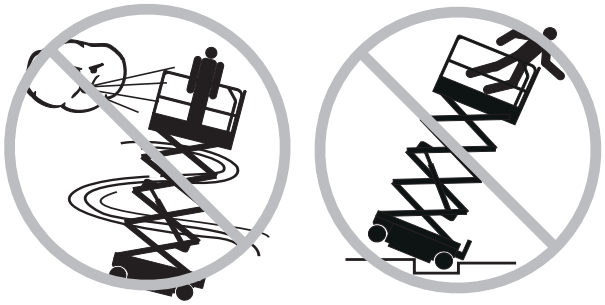


挟まったり、引っ掛かったり、もしくは近くの建造物によって通常の運行を妨げられた作業台を解放する目的で、作業台操作を使用しないでください。全員の作業員が作業台から降りてから、地上操作を使用して作業台を解放してください。

機械の部品を改造したり、使用不能にしたりしないでください。 機械の安全性と安定性に影響します。

機械の安定性に重大にかかわる部品を、重量や仕様の異なるものと取り替えないでください。

強風や突風の中で機械を操作しないでください。作業台の表面や積載床面を大きくしないでください。風にあたる面積が増えるにつれて機械の安定性が減少します。



水平でない不安定な地面、あるいは他のブームを上昇または伸長するには危険な状況、またはその近辺では、機械を走行しないでください。

平らでない、障害物のある、不安定な場所、滑りやすい場所、あるいはくぼみや急に低くなっている近辺で、収納状態の機械を走行する際は、細心の注意をはらうとともに、機械を減速してください。

作業台の外にある物体を押したり、引っ張ったりしないでください。

GS-2668 DC	
ANSI および CSA - 4 人	890 N
CE - 屋内使用のみ - 4 人	400 N
CE - 屋外使用- 4 人	400 N
オーストラリア - 屋内使用のみ - 4 人	400 N
オーストラリア - 屋外使用 - 4 人	400 N

GS-3268 DC	
ANSI および CSA - 4 人	890 N
CE -屋内使用のみ - 4 人	400 N
CE -屋外使用- 2人	400 N
オーストラリア-屋内使用のみ - 4 人	400 N
オーストラリア - 屋外使用 - 2 人	400 N



安全規則

高所作業台を変更したり改造しないでください。道具を収納するための留め具や他の用具を作業台、踏み板、もしくは手摺りに取り付けると、作業台の重量や作業台や積載床面の表面を増大させます。

機械から荷物をぶら下げたり、取り付けたりしないでください。



作業台にはしごや足場を組まないでください。また本機械のどの部分にも立てかけないでください。

移動中または移動する可能性のある表面、もしくは車両上で機械を使用しないでください。

タイヤはすべて良好な状態にあり、溝つきナットが適切に締められてあり、ロック板の設置が適切であることを確認してください。

機械をクレーンとして使用しないでください。

機械や他の物体をブームで押さないでください。

ブームを近辺の建造物に接触しないでください。

ブームや作業台を近辺の建造物につながないでください。

作業台の周囲から荷物が突き出さないようにしてください。

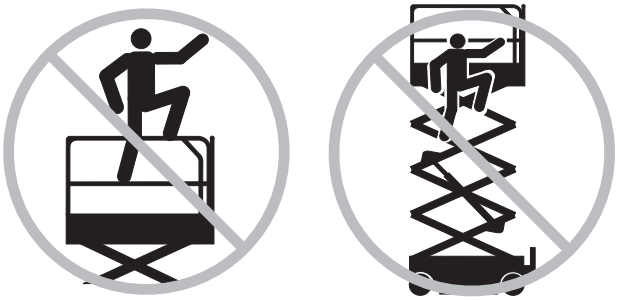
工場出荷時の機械に搭載されているバッテリーより軽いバッテリーは使用しないでください。バッテリーはカウンターウェイトとして使用されており、機械の安定性に不可欠です。バッテリーの重量は 29.5 kgです。

落下の危険



作業員は安全ベルトやハーネスを着用し、適合する法規に従わなければなりません。安全帯を作業台の錨に取り付けてください。

作業台の手摺りに座ったり、立ったり、上ったりしないでください。作業台の上では常にしっかりとした足場を確保してください。



作業台が上がっている状態で、作業台から降りないでください。

作業台の床面は、常にきれいにしておいてください。

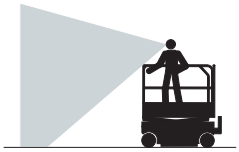
操作の前に出入口ゲートを閉じます。

ガードレールがしっかりと設置され、出入口ゲートが固定されるまで、機械を操作しないでください。

人体への傷害の危険

作動油や空気が漏れている状態で機械を操作しないでください。空気や作動油が漏れると、皮膚に飛び散ったり、やけどを負う原因となります。

衝突の危険



走行または操作中は、目視できる距離にかぎりがあることや、死角に注意してください。

機械を移動する際は作業台延長部の位置に注意してください。

ブレーキを解除する場合は、機械を水平な地面に止めてあるか、もしくは固定していなければなりません。

機械の操作時に従業員は認可のヘルメットを着用してください。

作業場において、頭上に障害物もしくは他に危険なものがないことをチェックしてください。



作業台の手摺りにつかまっているときは、手にケガをしないよう注意してください。

作業台操作および作業台のステッカーの色別矢印の方向を利用し、確認しながら、走行およびステアリングを行ってください。

頭上に作動中の機械がある場合、あるいはクレーンの軌道上において、ブームを操作しないでください。クレーンの制御がロックがされ、さらに衝突を防ぐための予防措置がとられていることを確認してから、機械を操作してください。

機械の操作時は、無謀な走行をしたり、むやみに騒いだりしないでください。

作業台の下に人がいないこと、および障害物になるものがないことを確かめてから作業台を下げてください。



地面の状態、まわりの混雑具合、傾斜、人の位置、およびその他追突の要因となるものによって、走行速度を制限してください。

部品の損傷の危険

溶接するときに機械にアースを接地しないでください。

爆発と火災の危険

危険な場所、および可燃性ガス、爆発性ガス、もしくはガスの微粒子が存在する場所では、機械を操作しないでください。

安全規則

機械の故障の危険

損傷もしくは故障している機械は使用しないでください。

シフトの前に、機械の操作前の点検を完全に行い、すべての機能をテストしてください。損傷もしくは故障している機械は、直ちに故障の貼り紙を付けて作業を中止してください。

本説明書とご使用の機械にあったサービスマニュアルに記載されているすべてのメンテナンスを必ず行ってください。

すべてのステッカーが適切な位置にあり、文字が読める状態であることを確認してください。

オペレータの安全と責任に関するマニュアルが完備され、読める状態で、作業台の上のマニュアル保管場所に置かれているようにしてください。

落下の危険

手や腕をシザースに近かづけないでください。

地上からコントローラで機械を操作する際は、常識的な判断と計画をもって行ってください。オペレータ、機械、建物との間には安全な距離を保ってください。

スナップピンを引くときは、作業台の手摺りをしっかり握ってください。作業台のガードレールが落ちないようにしてください。

ステッカーの説明

Genie 製品ステッカーは、識別しやすいよう、下記のようなシンボル、色別コード、および警報言語を使用しています。



安全警報シンボル－作業員にケガの危険があることを知らせます。ケガや死亡の危険を避けるために、このシンボルのあとに示されている全ての安全警告に従ってください。

⚠ 危険 赤－差し迫った危険があることを示します。 この危険を回避しない場合は重傷または死に至ることがあります。

⚠ 警告 オレンジ－危険な状況になる可能性があることを示します。 この危険を回避しない場合は重傷または死に至ることがあります。

⚠ 要注意 安全上の警告シンボルを伴った黄色－危険な状況になる可能性があることを示します。 この危険を回避しない場合は小さなケガから中程度のケガを負うことがあります。

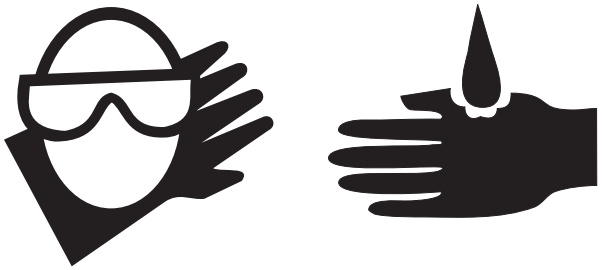
要注意 安全上の警告シンボルがない黄色－危険な状況になる可能性があることを示します。 この危険を回避しない場合は機械が故障することがあります。

注意 緑－操作情報またはメンテナンス情報を示します。

バッテリーの安全

熱傷の危険

バッテリーには酸が入っています。バッテリーに作業を行うときは、常に保護服と保護メガネを着用してください。



バッテリーの酸をこぼしたり酸に触れないようにしてください。バッテリー液がこぼれた場合は重曹と水を使って中和してください。

充電中はバッテリーまたは充電器を水や雨にさらさないでください。

爆発の危険



火花、炎、火のついたタバコなどをバッテリーに近づけないでください。バッテリーは爆発性ガスを放出します。

バッテリートレイは充電中はずっと開いたままにしてください。

バッテリー端末、またはケーブル留め金を火花を発する可能性のある道具に接触させないでください。

部品損傷の危険

バッテリーの充電には、48V以上の充電器は使わないでください。

感電の危険



充電器は、接地されているAC-3 ワイヤの電気コンセントにのみ接続してください。

コード、ケーブルおよび配線への損傷を毎日点検してください。破損している部品は操作する前に取り替えてください。

バッテリー端末に触れると感電することがあります。指輪、時計、その他の貴金属を全て外してください。

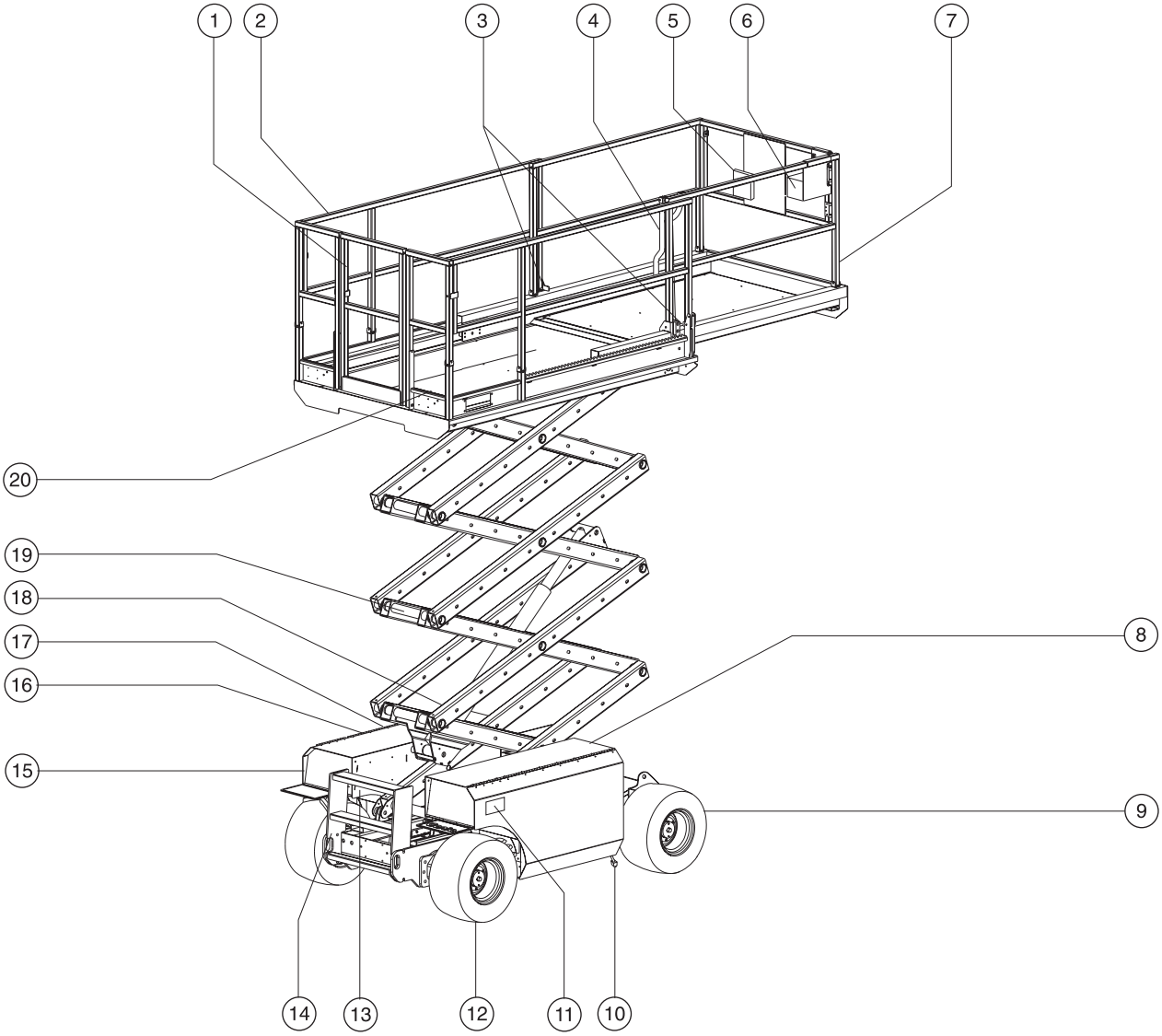
転倒の危険

工場出荷時の機械に搭載されているバッテリーより軽いバッテリーは使用しないでください。バッテリーはカウンターウェイトとして使用されており、機械の安定性に不可欠です。バッテリーの重量は 29.5 kgです。

リフトの危険

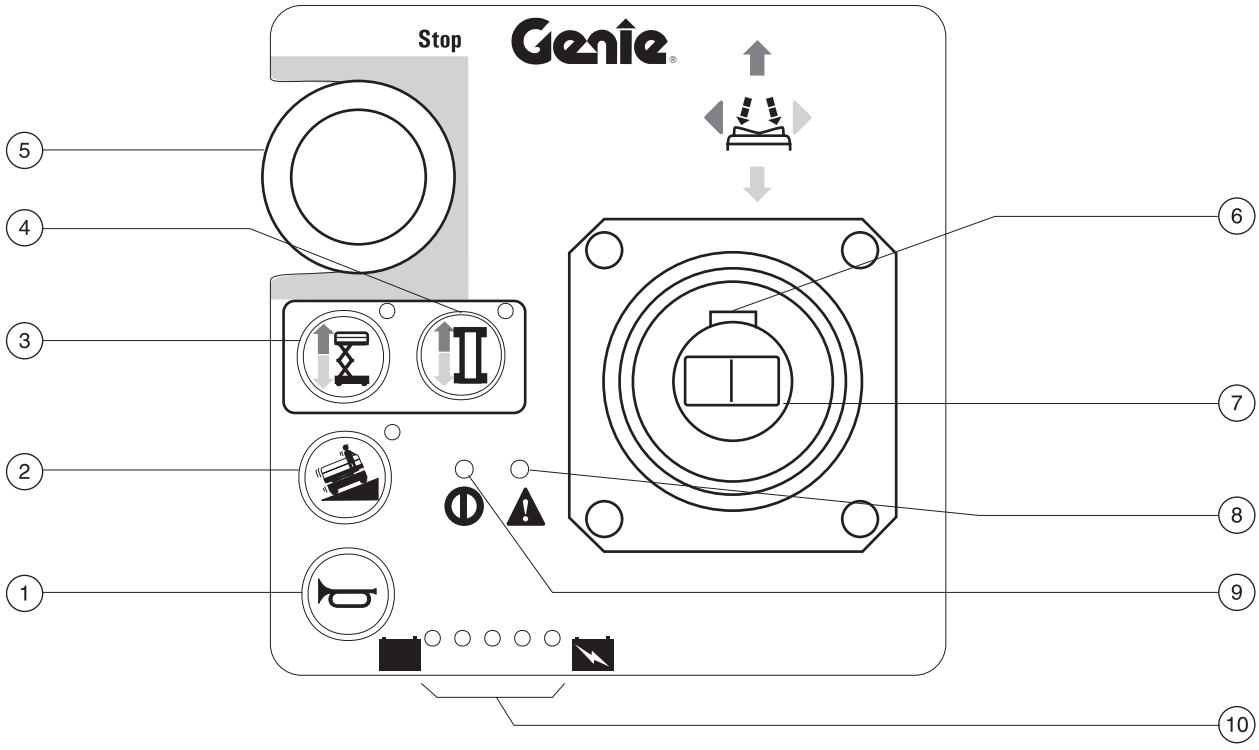
適切な人数の作業員と正しい手段で作業を行ってください。

説明



1 作業台出入口
2 作業台ガードレール
3 安全帯設置点
4 作業台延長ロックハンドル（マニュアル作業台延長のみ）
5 操作説明書保管用コンテナ
6 作業台操作
7 作業台延長部
8 バッテリー側面カバー
9 ステアリングタイヤ
10 作業台への電源リード線
11 充電器への電源リード線および充電器（カバーの下）
12 非ステアリングタイヤ
13 傾斜アラーム（カバーの下）
14 出入口用はしご／輸送用荷締め
15 手動下降と地上操作およびLED 診断
16 地上操作側面カバー
17 作動油量インジケータ（カバー下）
18 ブレーキ解除ポンプノブとブレーキ解除ノブ（ここでは隠れています）
19 安全アーム
20 GFCI コンセント

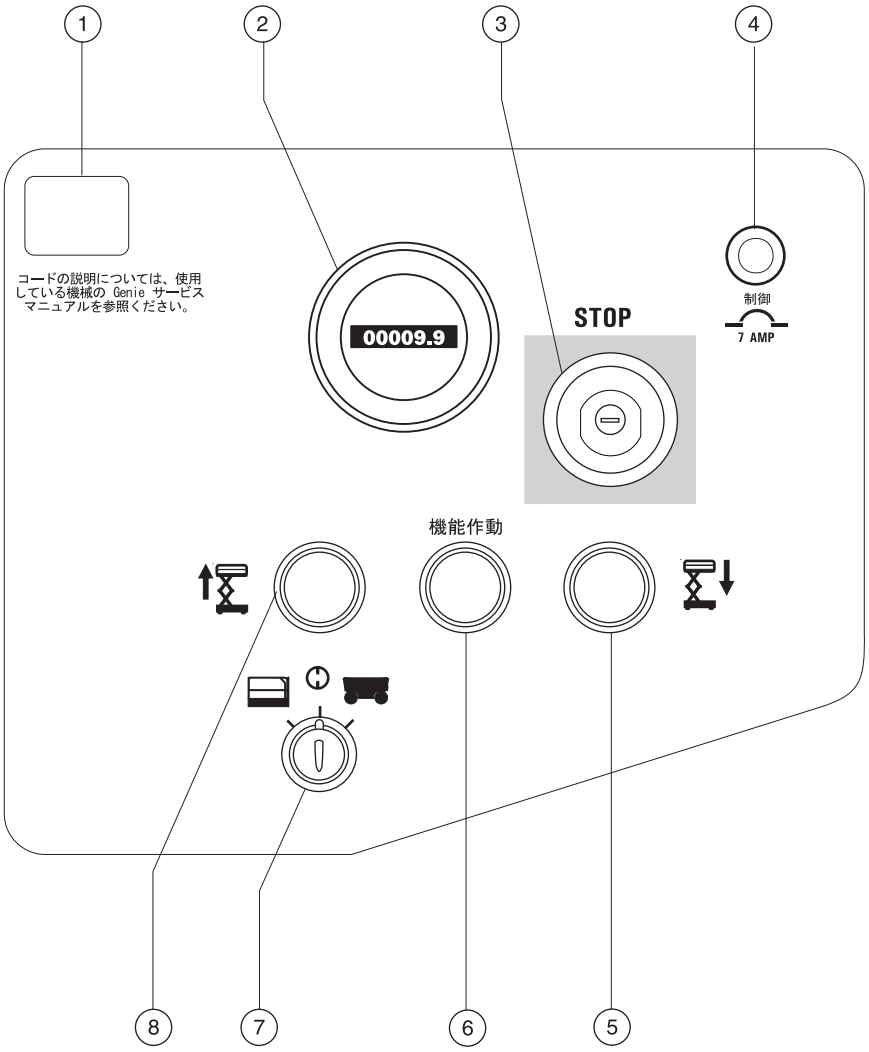
操作



作業台操作

1 ホーンボタン
2 傾斜ボタン：傾斜用の低速操作
3 インジケータランプ付リフト機能セレクタボタン
4 インジケータランプ付走行機能セレクタボタン
5 非常停止ボタン
6 機能スイッチ
7 リフトおよび走行機能用比例コントロールハンドルとステアリング機能用ロッカースイッチ
8 エラー表示ランプ
9 電源ランプ
10 バッテリーレベルインジケータ

操作



地上操作パネル

1 LED 診断読み出し
2 時間計
3 赤色非常停止ボタン
4 操作回路用 7 AMP 回路ブレーカ
5 作業台下降ボタン
6 機能作動ボタン
7 作業台操作/オフ/地上操作セレクタキースイッチ
8 作業台上昇ボタン

操作前の点検



操作を行う必須条件：

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 常に操作前の点検を行う。

操作前の点検を確認し、念頭に置いて次のセクションに進む。

3 使用する前に常に機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

操作前の点検と規定メンテナンスはオペレータが責任をもって行ってください。

操作前の点検とは、シフトの前にオペレータが目で見て行う点検です。この点検は、オペレータが機能テストを行う前に、目で点検して異常な箇所を見つけることを目的としています。

さらに操作前の点検によって、メンテナンスが必要かどうかを決めます。この説明書に記載してあるメンテナンス項目のみオペレータによって行えます。

次ページのリストで、部品が変更されていないか、損傷部品や緩んでいたり欠けている部品がないかをチェックしてください。

故障もしくは改造した機械は決して使用しないでください。もし工場出荷時の状態から損傷もしくは何らかの異変が発見されたら、機械に故障中の貼り紙をつけて使用を停止してください。

機械の修理は、認定を受けたサービス担当者のみが製品仕様に基づき行ってください。修理が終了したら、オペレータは機能テストに移る前に再度操作前の点検を行ってください。

定期保守点検は、認定を受けたサービス担当者が製品仕様と責務マニュアルに記載されている要項に基づいて行ってください。

操作前の点検

操作前の点検

- ❏ オペレータの安全と責任に関するマニュアルが完備され、文字が読める状態で、作業台の保管場所に保管されていることを確認します。
- ❏ すべてのステッカーは、文字が読める状態で所定の位置あるか確認します。「ステッカー」のセクションを参照してください。
- ❏ 作動油の漏れがないか、量が適当かどうかをチェックします。必要に応じてオイルを足してください。「メンテナンス」のセクションを参照してください。
- ❏ バッテリー液の漏れがないか、量が適当かどうかをチェックします。必要に応じて蒸留水を足してください。「メンテナンス」のセクションを参照してください。

以下の部品もしくは部分が損傷していたり、変更されていないか、きちんと設置されていなかったり、なくなっている部品がないことをチェックします。

- ❏ 電気部品、配線、電気ケーブル
- ❏ 油圧ユニット、タンク、ホース、フィッティング、シリンダー、マニホールド
- ❏ バッテリーパックと接続
- ❏ 走行モーター
- ❏ 磨耗板
- ❏ タイヤとホイール
- ❏ リミットスイッチ、アラームと警報
- ❏ ナット、ボルトおよびその他の締め具
- ❏ 作業台出入口
- ❏ ビーコンと警報（搭載する場合）
- ❏ ブレーキ解除部品
- ❏ 安全アーム
- ❏ 作業台延長部
- ❏ シザースピンと固定ファスナー
- ❏ 作業台操作ジョイスティック
- ❏ 電圧変換機（搭載する場合）

機械全体をとおして下記をチェックします：

- ❏ 溶接や機械部品の割れ
- ❏ 機械のへこみや損傷
- ❏ 機械を構成するどの部品も欠けておらず、適切なファスナーやピンが正しい位置にしっかりと締められた状態になっていることを確認します。
- ❏ 側面レールが設置され、ピンとボルトが締まっていることを確認します。
- ❏ シャーシ台が正しい位置に設置され、ラッチで留められ、適切に接続されていることを確認します。

メンテナンス



必ず従うこと：

☑ この説明書に記載してあるメンテナンス項目のみオペレータによって行なうことができます。

☑ 定期保守点検は、認定されているサービス担当者が製品仕様と責務マニュアルに記載している要項に基づいて行ってください。

メンテナンス記号の説明

注意 次のシンボルは、指示の目的をわかりやすくするために本マニュアルで使用されています。メンテナンス手順のはじめにあるシンボルは、次を意味しています。



この手順を行うために、工具が必要です。



この手順を行うために、新たな部品が必要です。

作動油量の点検



作動油量を適切なレベルにしておくことは機械操作にとって非常に重要です。作動油量が適切でないと油圧部品に損傷を与えることがあります。点検担当者は作動油量を毎日チェックすることにより、作動油量に変化がある場合には油圧システムでの問題を早期に見つけることができます。

注意 作業台を収縮した状態でこの作業を行ってください。

1 作動油容器側面の表示計をチェックします。

⊙ 結果：作動油の量は、表示ゲージの上部 5 cm 以内にあるはずです。

2 必要に応じてオイルを追加します。このときに溢れないようにしてください。

作動油の仕様	
作動油タイプ	Dexron に相当

メンテナンス

バッテリーのチェック



エンジンの性能を保ち機械を安全に操作するには、バッテリーが適切な状態であることが重要です。液量が適切でなかったり、ケーブルまたは接続が損傷していると、エンジン部品の故障につながり危険な状態を招くおそれがあります。

注意 密封型またはメンテナンス不要のバッテリーを搭載する機械では、この手順を実行する必要はありません。

⚠ 警告 感電の危険。熱くなっている回路やライブ回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計、その他の貴金属を全て外してください。

⚠ 警告 人体への障害の危険。バッテリーには酸が入っています。バッテリーの酸をこぼしたり酸に触れないようにしてください。バッテリー液がこぼれた場合は重曹と水を使って中和してください。

注意 このテストはバッテリーを完全に充電してから行ってください。

1 保護服と保護用メガネを着用してください。

2 バッテリーケーブルがしっかりと接続され、腐食されていないことを確認します。

3 バッテリー固定ブラケットが適切に配置されていることを確認します。

4 バッテリー通気孔のキャップをとります。

5 各バッテリーの酸の量をチェックします。必要に応じてバッテリーチューブの底に蒸留水を補給します。このときに溢れないようにしてください。

6 バッテリー通気孔のキャップをつけます。

注意 端末プロテクターや腐食防止シーラーを添付することで、バッテリー端末とケーブルの消耗を防ぐことができます。

定期保守点検

四半期ごと、1 年ごと、2 年ごとに行われる保守点検は、本装置のメンテナンストレーニングを受け認定されている担当者が本装置のサービスマニュアルの手順に従って行わなければなりません。

3ヶ月以上使用されていない機械は、再び使用する前に必ず四半期点検を行ってください。

機能テスト



操作を行う必須条件：

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 常に操作前の点検を行う。

3 使用前に常に機能テストを行う。

次のセクションに進む前に、機能テストについてよく理解してください。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

機能テストは、機械を使用する前に故障を見つけることを目的としています。オペレータは、指示された手順に従って、全ての機能をテストしてください。

故障している機械は決して使用しないでください。故障が見つかった場合は、故障の貼り紙を付けて作業を中止してください。機械の修理は、認定を受けたサービス担当者のみが製品仕様に基づき行ってください。

修理が終了したら、オペレータは機械を使用する前に、再び操作前の点検、続いて機能テストを行ってください。

機能テスト

1 障害物がなく、水平で安定している場所でテストを行ってください。

2 バッテリーパックが接続されていることを確認してください。

地上操作

3 地上操作と作業台操作の両方の赤い非常停止ボタンを引いてボタンをオンの位置にします。

4 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

5 診断 LED 読み出しを確認します。



⊙ 結果： LED の表示は右図のようになります。

非常停止のテスト

6 赤い非常停止ボタンを押してオフにします。

⊙ 結果：機能は何も作動しません。

7 赤い非常停止ボタンを引いてオンにします。

上下機能のテスト

下降アラームと作動アラームは、シャーシから毎分 60 回のビープ音を鳴らします。機械が水平でないときに警告するアラームは、シャーシと作業台で毎分 180 回ビープ音を鳴らします。

8 機能作動ボタンを押さないで、作業台上昇機能を始動します。

⊙ 結果：機能は何も作動しないはずです。

9 機能作動ボタンを押しながら、作業台上昇機能を始動します。

⊙ 結果：作業台が上昇します。

10 機能作動ボタンを押しながら、作業台下降機能を始動します。

⊙ 結果：作業台が下降します。作業台が下がっているときには下降アラームが鳴ります。

手動下降のテスト

11 機能作動ボタンを押しながら、作業台上昇機能を始動します。作業台を約 60 cm 上げます。

12 赤い非常停止ボタンを押して、オフにします。

13 赤い非常停止ボタンを引いて、オンにします。

14 機能作動ボタンを押さえながら、作業台下降機能を作動させます。

⊙ 結果：作業台が下降します。下降アラームは鳴りません。

15 キースイッチを回して作業台操作に切り替えます。

作業台操作

非常停止のテスト

16 作業台の赤い非常停止ボタンを押して、オフにします。

- 結果：機能は何も作動しません。

17 赤色非常停止ボタンを引いて、オンにします。

- 結果：緑色電源ランプがオンになります。

ホーンのテスト

18 ホーンボタンを押します。

- 結果：ホーンが鳴ります。

機能作動スイッチのテスト

19 コントロールハンドルの機能作動スイッチを押さないでください。

20 ジョイスティックを青い矢印の方向にゆっくりと動かしたあと、黄色い矢印の方向に動かします。

- 結果：機能は何も作動しません。

上下機能のテスト

21 リフト機能セレクタボタンを押します。

22 ジョイスティックの機能作動スイッチを押さえます。

23 ジョイスティックを青の矢印の方向へゆっくりと動かします。

- 結果：作業台が上昇します。

24 コントロールハンドルを離します。

- 結果：作業台の上昇が止まります。

25 機能作動ボタンを押さえます。ジョイスティックを黄色の矢印の方向へゆっくりと動かします。

- 結果：作業台が下降します。作業台が下がっているときには下降アラームが鳴ります。

CEモデル：地上から約 2.1 m の位置で作業台の下降が一旦停止されます。作業台の下に人がいないこと、物が置かれていないことを確認してから下降を継続してください。続けて作業台を下げるには、ジョイスティックを離し、5 秒間待ってから再度コントロールハンドルを動かします。

機能テスト

ステアリングのテスト

注記：ステアリングと走行機能テストを実施する際、作業台のステアリング側に向いて立ってください。

26 機能作動セレクトボタンを押します。

27 機能作動ボタンを押さえます。

28 走行コントロールハンドルの先端にあるロッカースイッチを、操作パネルの青い三角の示す方向に押し下げます。

⊙ 結果：ステアリングホイールが操作パネルの青い三角が示す方向に回ります。

29 ロッカースイッチを、操作パネルの黄色い三角の示す方向に押し下げます。

⊙ 結果：ステアリングホイールが操作パネルの黄色い三角が示す方向に回ります。

走行とブレーキのテスト

30 機能作動ボタンを押さえます。

31 走行コントロールハンドルを操作パネルの青い矢印の方向に機械が動き始めるまでゆっくりと動かしたあと、ハンドルを中央位置まで戻します。

⊙ 結果：機械が操作パネルの青い矢印の方向に動き、突然止まります。

32 機能作動ボタンを押さえます。

33 走行コントロールハンドルを操作パネルの黄色い矢印の方向に機械が動き始めるまでゆっくりと動かしたあと、ハンドルを中央位置まで戻します。

⊙ 結果：機械が操作パネルの黄色い矢印の方向に動き、突然止まります。

注記：ブレーキは、機械が登ることのできるすべての斜面上で機械を止める能力を持っている必要があります。

制限走行速度のテスト

34 リフト機能セレクトボタンを押します。

35 ジョイスティックの機能作動スイッチを押さえます。

36 ジョイスティックを青の矢印の方向へゆっくりと動かします。作業台を地上約 1.83 m まで上げます。

37 走行機能セレクトボタンを押します。

38 機能作動ボタンを押さえます。

39 走行コントロールハンドルをゆっくりとフル走行の位置に動かします。

⊙ 結果：補助ブームが上昇した状態での最大走行速度は 秒速 22 cm を越えてはいけません。

作業台を上げた状態での走行速度が秒速 22 cm 以上の場合、直ちに故障中の貼り紙をつけて機械の使用を中止してください。

傾斜センサーのテスト

注記：このテストは地上で作業台操作で行ってください。作業台には立たないでください。

40 作業台を完全に下げます。

41 機械片側の両方のホイールを 10 cm のブロックまたは歩道縁に乗り上げてください。

42 作業台を地上約 2.4 m まで上げます。

⊙ 結果：作業台が止まり、傾斜アラームが毎分 180 回のビープ音を鳴らします。

43 走行セレクトボタンを押します。

44 ジョイスティックを青い矢印の方向にゆっくりと動かしたあと、黄色い矢印の方向に動かします。

⊙ 結果：走行機能はどちらの方向にも作動しません。

45 作業台を下降し、機械をブロックから下ろします。

作業場の点検



操作を行う必須条件 :

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 常に操作前の点検を行う。

3 使用前に常に機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

次のセクションに進む前に、作業場の点検についてよく理解する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

作業場を点検することによって、オペレータは作業場が安全に機械を操作するのに適しているかどうかを判断することができます。作業場の点検は、作業場に機械を移動する前に行わなければなりません。

オペレータは作業場で起こりうる危険を心得たうえ、機械の移動、セットアップ、運転時に注意を払い、危険をさけてください。

作業場の点検

次の危険な状態に注意し、避けてください :

- 急に低くなっているところ、くぼみ
- でこぼこした道、床の障害物もしくは破片
- 頭上の障害物、高圧送電線
- 危険な場所
- 機械の重量に耐えられない地面の状態
- 風や天候の状態
- 関係作業員以外の存在
- その他に起こる可能性のある危険な状態

操作手順



操作を行う必須条件：

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 常に操作前の点検を行う。

3 使用前に常に機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

操作手順のセクションでは、各機械操作の特徴ごとに手順を説明しています。安全規則やオペレータの安全および責務マニュアルの手順に従うことはオペレータの任務です。

作業員および工具を空中の作業場まで上げる目的以外で機械を使用することは危険です。

トレーニングを受け認定された担当者のみ機械を操作することが許されています。2 人以上のオペレータが同じ勤務時間内で異なる時間帯に機械を使用する場合、すべてのオペレータが資格を有し、安全規則やオペレータの安全および責務マニュアルの手順に従がわなければなりません。すなわち、オペレータが交替するたびに、次のオペレータが機械の操作前に、操作前点検、機能テスト、作業場点検を行ってください。

非常停止

すべての機能の停止するには、地上操作または作業台操作で赤色非常停止ボタンをオフの位置まで押し入れてください。

非常停止ボタンが押されている状態で作動している機能は修理する必要があります。

操作手順

手動下降

1 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

2 地上操作と作業台操作の両方の赤い非常停止ボタンを引いてボタンをオンの位置にします。

3 機能作動ボタンを押したままにします。

4 作業台下降機能を作動させます。

地上からの操作

1 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

2 地上操作と作業台操作の両方の赤色非常停止ボタンを引いてボタンをオンの位置にします。

3 機械の操作を行う前にバッテリーパックが接続されていることを確認します。

作業台を位置につける

1 機能作動ボタンを押さえます。

2 作業台上昇または下降機能を作動します。

走行機能およびステアリング機能は地上操作から操作できません。

作業台からの操作

1 キースイッチを回して作業台操作に切り替えます。

2 地上操作と作業台操作の両方の赤い非常停止ボタンを引いてボタンをオンの位置にします。

3 機械の操作を行う前にバッテリーパックが接続されていることを確認します。

作業台を位置につける

1 リフト機能セレクトボタンを押します。

2 ジョイスティックの機能作動スイッチを押さえます。

3 操作パネルの印を確認しながら、操作ハンドルを動かします。

ステアリング

1 機能作動ボタンを押さえます。

2 走行コントロールハンドル先端のロッカースイッチを使って、ステアリングホイールを動かします。

走行

1 機能作動ボタンを押さえます。

2 加速：ゆっくりと走行コントロールハンドルを中心の位置から動かします。

減速：ゆっくりとコントロールハンドルを中心に動かします。

停止：コントロールハンドルを中心に戻すか、または機能作動スイッチを放します。

作業台と作業台操作で色別されている方向矢印を使って、機械の進む方向を確認してください。

作業台が上昇している状態での機械の走行速度は、制限されています。

バッテリーの状態は機械の性能に影響します。充電インジケータランプが点灯すると、機械の走行速度が制限され、リフト機能が使用できなくなります。

走行セレクトスイッチ



傾斜：
傾斜用の低レンジ操作

作業台の延長と収縮（手動での作業台の延長）

1 作業台延長ロックハンドルを水平位置に上げます。

2 作業台延長ロックハンドルを押して、作業台を必要な位置まで延長します。

作業台を延長しているときは、作業台に立たないでください。

3 作業台延長ロックハンドルを下げます。

コントローラを使った地上からの操作

オペレータ、機械、および固定物の間に十分な安全距離を保ってください。

コントローラを使う際は、機械が走行する方向に注意してください。

使用後の注意

1 固い水平な地面で、障害物や人や車の往来のない、安全な格納場所を選んでください。

2 作業台を下げます。

3 キースイッチをオフの位置に回し、関係者以外による使用をさけるためキーを取り外します。

4 輪止めをかまします。

5 バッテリーを充電します。

操作手順



バッテリーと充電器の操作手順

必ず従うこと：

- ☑ 外部充電池またはブースターバッテリーを使用しないでください。
- ☑ よく換気された場所でバッテリーを充電してください。
- ☑ 充電器に表示されている適切な AC 入力電圧を使用してください。
- ☑ Genie 承認のバッテリーと充電器を使用してください。

バッテリーの充電

1 充電前にバッテリーが接続されていることを確認してください。

2 バッテリー箱を開けます。箱は充電中ずっと開けておきます。

3 バッテリー通気孔のキャップをとり、バッテリー液の量をチェックします。必要に応じてプレートがかくれる程度に蒸留水を入れます。充電の前には入れすぎないでください。

4 バッテリー通気孔のキャップを取り付け直します。

5 接地されている AC 回路に充電器を接続します。

6 充電器をオンにします。

7 バッテリーが完全に充電されると、充電池のスイッチが自動的に切れます。

8 充電が終了したらバッテリー液の量をチェックします。必要に応じてバッテリーチューブの底に蒸留水を補給します。このときに溢れないようにしてください。

乾式バッテリーの液注入と充電の手順

1 バッテリー通気孔のキャップをとり、バッテリー通気孔開口部のプラスチックシールを取り除きます。

2 それぞれのセルにプレートがかくれるのに十分な程度のバッテリー液（電解液）を入れます。

バッテリー充電のサイクルが終了するまでは、いっぱいに入れないでください。入れすぎると、充電中にバッテリー液が溢れることがあります。バッテリー液がこぼれた場合は重曹と水を使って中和してください。

3 バッテリー通気孔のキャップをつけます。

4 バッテリーを充電します。

5 充電が終了したらバッテリー液の量をチェックします。必要に応じてバッテリーチューブの底に蒸留水を補給します。このときに溢れないようにしてください。

輸送手順



必ず従うこと：

- ☑ クレーンやフォークリフトで機械を持ち上げるときは、常識的な判断と計画をもって機械の動きを制御してください。
- ☑ 運搬車は平坦な地面に駐車してください。
- ☑ 機械を載せるときは、輸送車両が動かないよう固定してください。
- ☑ 車両の最大積載重量、積載位置、チェーンやストラップが機械の重量に十分に耐えうるものであることを確認してください。シリアルプレートを参照してください。
- ☑ ブレーキを解除する場合は、機械が水平な地面に止めてあるか、もしくは固定されていなければなりません。

輸送用トラックあるいはトレーラーへの固定

輸送する場合は必ず前もって機械に輪止めをかましてください。

シャーシにある荷締め個所を使って、機械を荷台に固定します。

積載荷重量に十分耐えうるチェーンやストラップを使用してください。

輸送の前にキースイッチをオフの位置に回し、キーを取り外してください。

緩んでいたり、固定されていない箇所がないか機械全体を点検します。

ブレーキ解除操作

1 機械が動かないよう輪止めをかましてください。

2 シャーシの荷締め個所にウィンチラインがしっかりと固定され、軌道に障害物が無いことを確認します。

3 ブレーキ解除ノブを半時計回りに回して、ブレーキ弁を開けます。

4 ブレーキ解除ポンプノブを押します。

機械を載せたら：

1 機械が動かないよう輪止めをかましてください。

2 ブレーキ解除ノブを時計回りに回し、ブレーキをリセットします。

Genie GS-2668 DC または GS-3268 DC の牽引は、推奨されていません。牽引しなければならない場合は、時速 3.2 km を越えないでください。

ステッカー

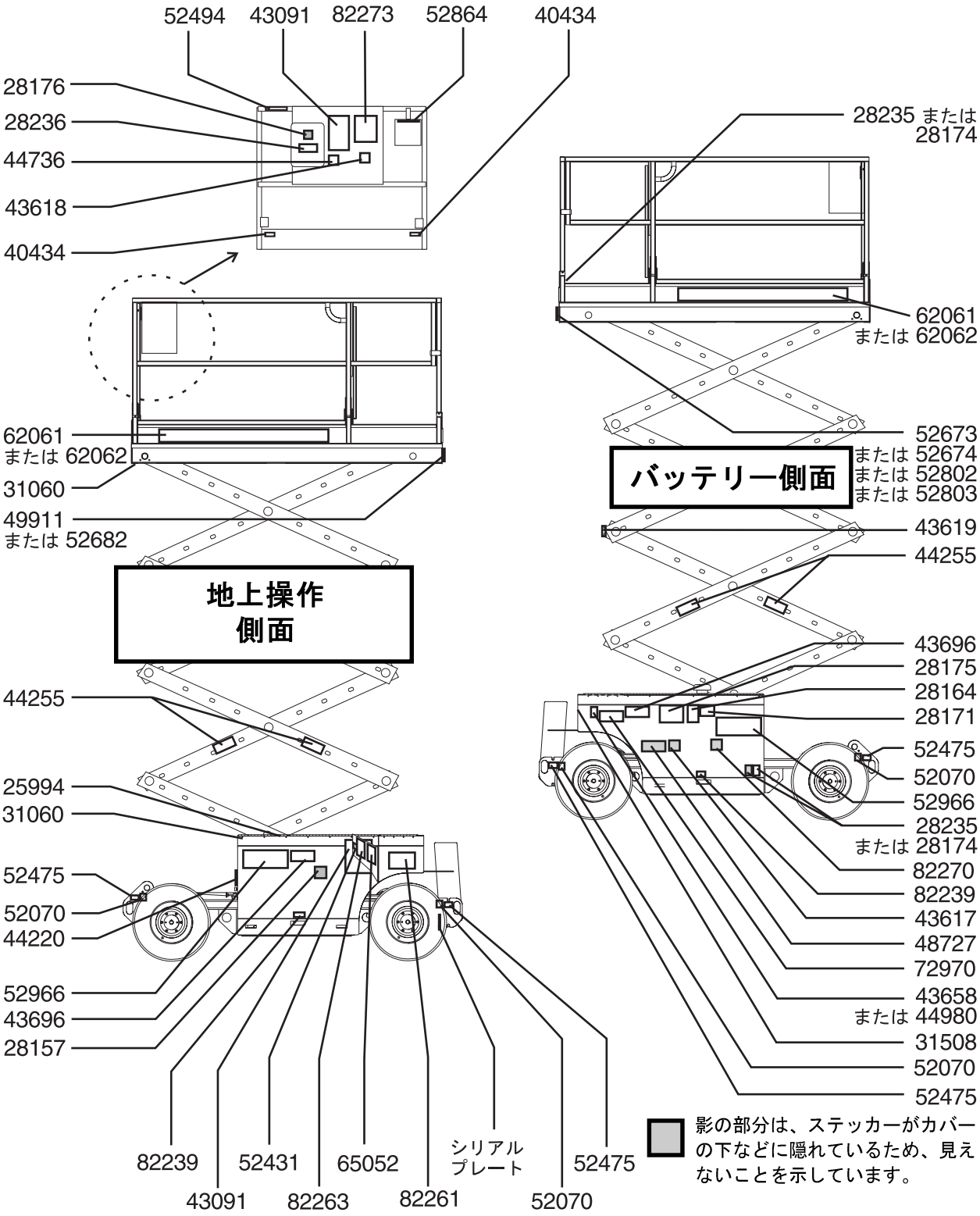
ステッカーの点検

次ページを参照し、ステッカーが文字の読める状態で所定の位置に貼られていることを確認してください。

下記は、番号順のステッカーの数量と詳細です。

品番	名称	数量
25994JA	要注意 - 部品の損傷	1
28157JA	ラベル - Dexron	1
28164JA	注意 - 危険機材	1
28171	ラベル - 禁煙	1
28174JA	ラベル - 作業台への電力 230V	3
28175JA	要注意 - コンパートメントへのアクセス	1
28176JA	注意 - 説明書の紛失	1
28235JA	ラベル - 作業台への電力 115V	3
28236JA	警告 - 読み出し失敗 . . .	1
31060JA	危険 - リミットスイッチは変更しない	2
31508JA	注意 - 充電器への電力	1
40434JA	ラベル - 安全帯固定箇所	2
43091JA	危険 - 一般安全	2
43617JA	危険 - 転倒の危険	1
43618	ラベル - 方向矢印	1
43619JA	ラベル - 安全アーム	1
43658JA	ラベル - 作業台への電力 - 230V	1
43696JA	危険 - 感電の危険	2
44220JA	危険／注意 - ブレーキ解除安全および操作手順	1
44255JA	危険 - 落下の危険	4
44736JA	危険 - 傾斜アラーム	1
44980JA	ラベル - 作業台への電力 -115V	1
48727JA	危険 - バッテリー充電器の安全	1
49911JA	注意 - 最大積載荷重 567 kg - GS-2668 RT および DC	1
52070JA	注意 - タイヤの仕様	4
52431JA	地上操作パネル	1
52475JA	ラベル - 搬送下方結び	4
52494JA	警告 - 衝突の危険 - レール	1
52673JA	注意 - 最大側面力、ANSI および CSA- GS-2668 RT および DC	1
52674JA	注意 - 最大側面力、CE- GS-2668 RT および DC	1
52682JA	注意 - 最大積載荷重 454 kg - GS-3268 RT および DC	1
52802JA	注意 - 最大側面力、ANSI および CSA- GS-3268 RT および DC	1
52803JA	注意 - 最大側面力、CE GS-3268 RT および DC	1
52864	作業台操作パネル	1
52966	外装 - 4 x 2	2
65052JA	ラベル - 故障コード	1
62061	外装 - Genie GS-2668 DC	2
62062	外装 - Genie GS-3268 DC	2
72970JA	注意 - 操作手順	1
82239JA	ラベル -ラッチ	2
82261JA	地上操作パネル	1
82263JA	注意 - 操作手順	1
82270JA	注意 - バッテリー接続図	1
82273JA	注意 - 操作手順	1

ステッカー


52494
43091
82273
52864
40434
28176
28236
44736
43618
40434
62061
または 62062
31060
49911
または 52682
地上操作
側面
44255
25994
31060
52475
52070
44220
52966
43696
28157
82239
43091
52431
82263
65052
82261
シリアル
プレート
52070
52475
28235 または
28174
62061
または 62062
52673
または 52674
または 52802
または 52803
バッテリー側面
43619
44255
43696
28175
28164
28171
52475
52070
52966
28235
または 28174
82270
82239
43617
48727
72970
43658
または 44980
31508
52070
52475
影の部分は、ステッカーがカバーの下などに隠れているため、見えないことを示しています。

仕様

モデル	GS-2668 DC
高さ、操作時最大	9.9 m
高さ、作業台最大	7.9 m
高さ、作業台収納時最大 手摺りを上げた状態	2.34 m
高さ、作業台収納時最大 手摺りを下げた状態	1.64 m
高さ、作業台収納時最大 手摺りなし	1.18 m
高さ、手摺り	1.02 m
幅	1.73 m
奥行き、作業台延長時	2.67 m
奥行き、作業台収納時	4.2 m
最大積載荷重	567 kg
ホイールベース	1.85 m
旋回半径 (外径)	3.68 m
旋回半径 (内径)	1.52 m
地上間隔	19 cm
重量 （機械の重量は、オプション構成により異なります。）	シリアルプレートを参照
登坂能力	30%
騒音 標準的な作業場での最大音量 （騒音レベル）	>80 dB
電源	8 バッテリー、225 AH
制御	比例
作業台 AC コンセント	標準

最大油圧力 (機能)	241バール
タイヤサイズ	23 x 10.5 x 360
作業台寸法	
作業台長さ x 幅	2.5 m x 1.55 m
作業台延長部	1.52 m
走行速度	
作業台収納時、最大	時速 5.3 km
作業台伸長時、最大	時速 0.8 km 12.2 m / 54.6 秒
床荷重表	
GVW（車両総重量）＋ 許容荷重	3674 kg
最大軸荷重	1868 kg
最大輪荷重	934 kg
タイヤごとの局部圧力	6.04 kg/cm^2 592 kPa
車体使用面積当たりの圧力	7.56 kPa

注記：床荷重表は概算値であり、異なるオプション構成を考慮したものではありません。適切な安全項目と共に使用されるべきです。

Genie では製品の改良を重ねていくことを方針としています。
製品の仕様は予告なく変更することがあります。

仕様

モデル	GS-3268 DC
高さ、操作時最大	11,8 m
高さ、作業台最大	9,8 m
高さ、作業台収納時最大 手摺りを上げた状態	2.46 m
高さ、作業台収納時最大 手摺りを下げた状態	1.77 m
高さ、作業台収納時最大 手摺りなし	1.31 m
高さ、手摺り	1.02 m
幅	1.73 m
奥行き、作業台収縮時	2.67 m
奥行き、作業台伸長時	4.19 m
最大積載荷重	454 kg
ホイールベース	1.85 m
旋回半径 (外径)	3.68 m
旋回半径 (内径)	1.52 m
最低地上高さ	19 cm
重量 （機械の重量は、オプション構成により異なります。）	シリアルプレートを参照
登坂能力	25%
騒音 標準的な作業場での最大音量 （騒音レベル）	>80 dB
電源	8 バッテリー、225 AH
制御	比例
作業台 AC コンセント	標準

最大油圧力 (機能)	241バール
タイヤサイズ	23 x 10.5 x 360
作業台寸法	
作業台長さx 幅	2.5 m x 1.55 m
作業台延長部	1.52 m
走行速度	
作業台収納時、最大	時速 5.3 km
作業台伸長時、最大	時速 0.8 km 12.2 m / 54.6 秒
床荷重表	
GVW（車両総重量）＋ 許容荷重	3892 kg
最大軸荷重	1787 kg
最大輪荷重	893 kg
タイヤごとの局部圧力	5.78 kg/cm^2 566 kPa
車体使用面積当たりの圧力	8.29 kPa

注記：床荷重表は概算値であり、異なるオプション構成を考慮したものではありません。適切な安全項目と共に使用されるべきです。